CASBEE 広島 2016年版
基町第22アパート新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境										2.8
1 音環境						3.0	0.15	2.8	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	2.6	0.50	
1 開口部遮音性能		サッシ遮音等級T-1。公住整備基準は開口部等級2で、T-1該当。				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		RC壁厚200mm以上、乾式耐火遮音壁Dr-45以上。				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-55目標。参考:軽量床衝撃音等級2(LrL-60相当以上)。				3.0	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr-60目標。公住整備基準:重量床衝撃音等級2(LrH-65相当以上)。				3.0	-	2.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	5.0	1.00	4.5
2.1 室温制御						3.0	1.00	5.0	1.00	
1 室温		室内共用部分無し。住戸内空調機器居住者設置。				-	-	-	-	
2 外皮性能		各住戸UA値0.6以下、ηAc値2.8以下。				3.0	1.00	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		室内共用部分無し。住戸内空調機器居住者設置。				-	-	-	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
3 光・視環境						1.9	0.25	4.0	1.00	3.5
3.1 昼光利用						3.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率		標準の2DK(小)A-1で判定。昼光率2.0%以上。				-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		昼光利用設備無し。				3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		庇、住戸はカーテンレール設置あり。				2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		住戸内照明機器居住者設置。				1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		住戸内照明機器居住者設置。				1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.3	1.00	3.4
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に採用。				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.7
1 機能性						2.4	0.40	2.0	1.00	2.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	2.0	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	2.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		居室天井高2.4m。				3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能表示の劣化対策等級3を満たす。(公営住宅整備基準)				5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管・水道用ホリチレン管、排水管・硬質塩化ビニル管				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.7	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.25	-	-	
3 電気設備						3.0	0.25	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.25	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.25	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			-	-	4.2	0.50	
1	階高のゆとり	基準階高3.0m。	3.0	-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.25	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.13	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.13	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.25	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.25	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出		外構緑化指数、21APは20%以上50%未満、22APは10%以上20%	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		本川対岸からの景観及び既存高層棟との調和への配慮等。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		沿道への集会所配置によるコミュニティ空間の創出等。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率60~80%未満、緑被率・水被率・中高木率合計10~20%未満。	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		各住戸UA値0.6以下、ηAc値2.8以下。(レベル4超)	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.76	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		高炉セメントを捨コンクリート、土間コンクリート、外構に使用	3.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能(床:置床、壁・天井:LGS+仕上)。	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2の削減(RC躯体の劣化対策等級3相当)。	4.9	0.33	-	-	4.9
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止		各住戸にガス給湯器設置。	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		地表面対策面積率15%以上30%未満。	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪台数は住戸数150%以上、駐車施設附置義務条例を満たす。	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	日影規制を満たしている。	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	深夜等の減灯、消灯を検討(共用部照明センサースイッチ、タイマースイッチ)。	2.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	